

9月19日 ロシア、カムチャツカ半島東岸の地震

2025年9月19日03時58分（日本時間、以下同じ）にロシア、カムチャツカ半島東岸の深さ20kmでMw7.8（Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）の地震が発生した。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと北米プレートの境界で発生した。この地震により、ハワイのマウイ島で0.28mなどの津波を観測した。

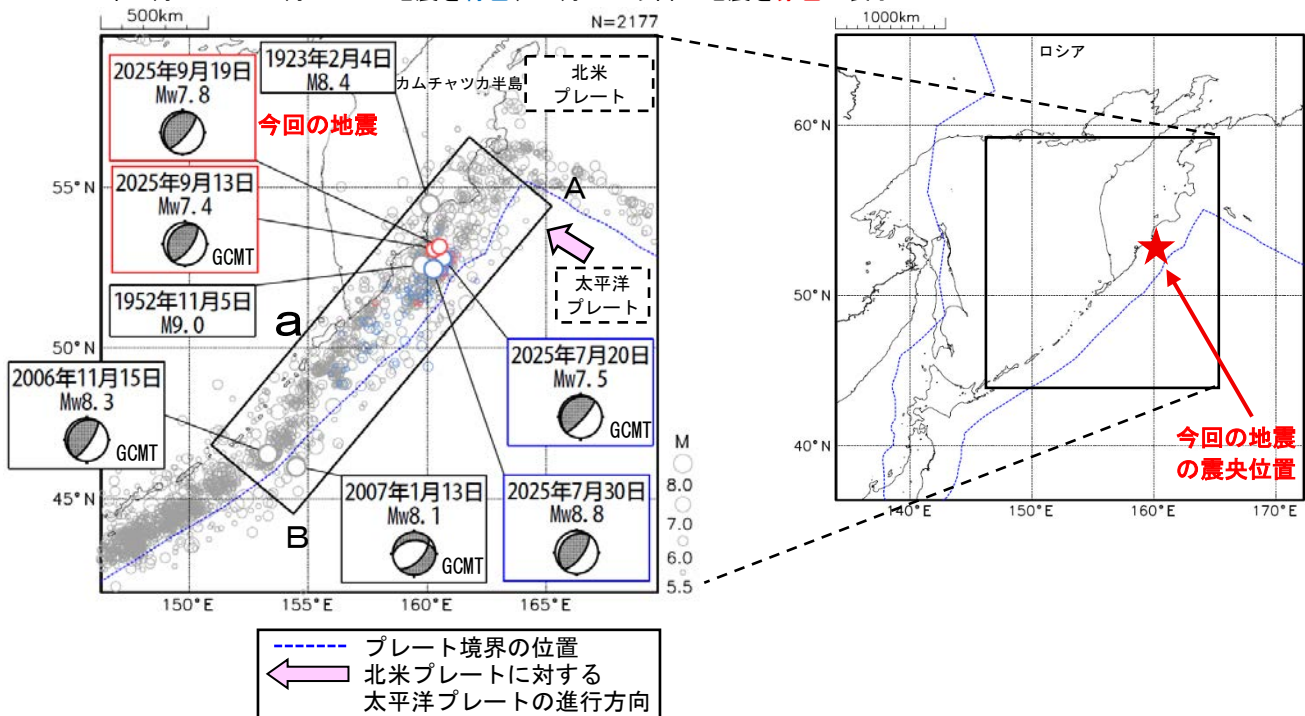
今回の地震の震央付近では、2025年7月20日15時49分にMw7.5（MwはGlobal CMTによる）の地震が、7月30日08時24分にMw8.8（Mwは気象庁による）の地震が発生し、地震活動が活発になった。また、2025年9月13日11時37分にMw7.4（MwはGlobal CMTによる）の地震が発生した。

1904年以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近では、M7.0以上の地震が時々発生している。1952年11月5日にはロシア、カムチャツカ半島東方沖でM9.0の地震が発生し、北海道から九州の太平洋沿岸を中心に津波を観測した。各地で家屋の浸水があり、計1200棟に達するなどの被害が生じた（被害は、「日本被害地震総覧」）による。

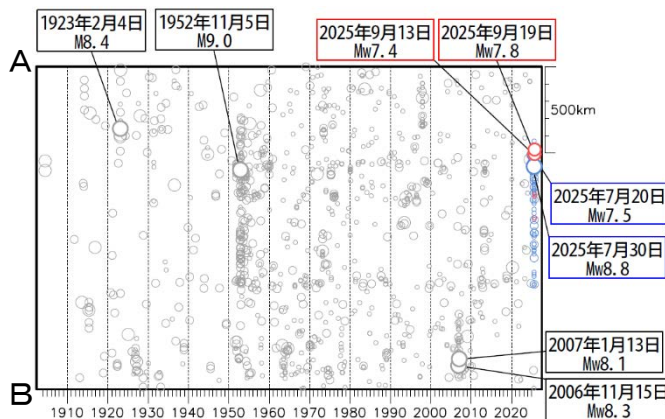
震央分布図

（1904年1月1日～2025年9月30日、深さ0～200km、M≥5.5）

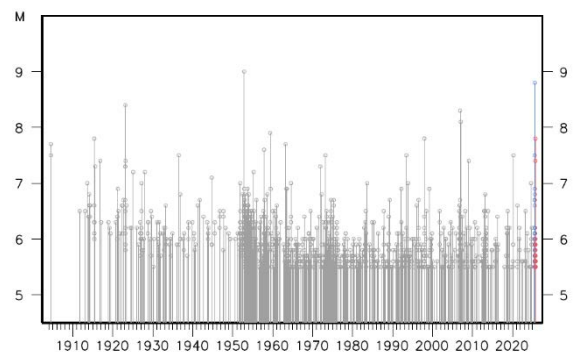
2025年7月20日～8月31日の地震を青色、9月1日以降の地震を赤色で表示



領域a内の時空間分布図（A-B投影）



領域a内のM-T図



※震源要素は、2021年まではISC-GEM Global Instrumental Earthquake Catalogue Version 12（1904-2021）、2022年以降は米国地質調査所（USGS）による（2025年10月1日現在）。ただし、吹き出しを付けた地震のうち、1952年11月5日の地震のMはUSGS、2006年11月15日、2007年1月13日、2025年7月20日及び同年9月13日の地震のMw及び発震機構はGlobal CMTによる。2025年7月30日08時24分及び今回の地震のMw及び発震機構は気象庁による。なお、1904年から1959年ごろまでの地震の検知能力はM6.0程度である。海外の津波の高さは米国海洋大気庁（NOAA）による（2025年10月1日現在）。プレート境界の位置とプレートの進行方向はBird（2003）*1より引用。

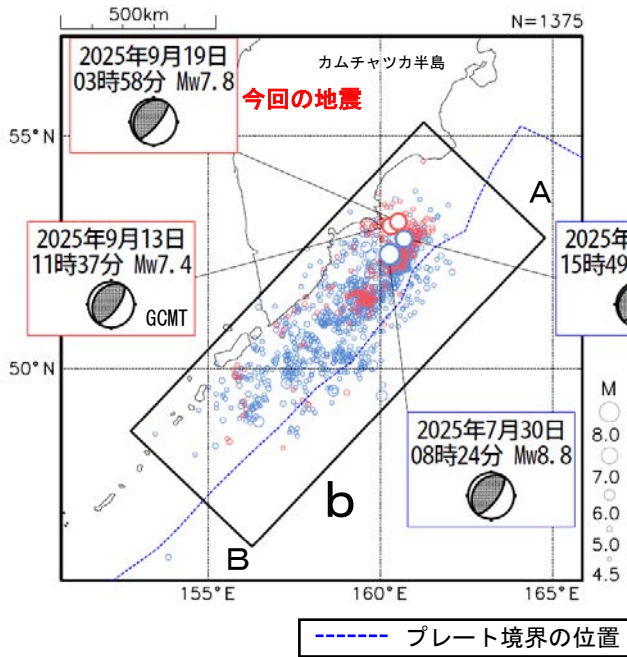
*1参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

震央分布図

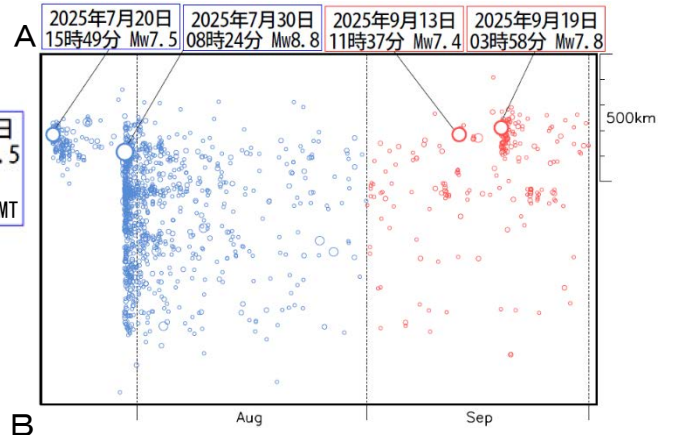
(2025年7月20日～9月30日、深さ0～200km、 $M \geq 4.5$)

2025年7月20日～8月31日の地震を青色、

9月1日以降の地震を赤色で表示



領域b内の時空間分布図 (A-B投影)



領域b内のM-T図

